
夜間不定時制学校

北見虹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜間不定時制学校

【Nコード】

N4364Z

【作者名】

北見虹

【あらすじ】

ごくごく普通のファミレスで、夜な夜な集まる異年齢異性別集団。そこに集まる人々は、それぞれの希望を大事に抱えていた。夜間不定時制、開校です。

来店

とある街のとあるファミレスには、夜な夜な老若男女が集まる。

ヤンキーだったり子連れだったり、老人だったり見た目至って普通の人だったり。ごく一般的に暮らしては、何の接点もなさそうな人たちが互いに支えあって過ごしている。そこは、学校へ行きたくても行けない、もしくは行きたくても行けなかったワケありの人々が集う「夜間不定時制学校」であった。

彼らの日常を今回は特別に覗いてみましょうか。あ、そんな隙間から覗かなくても結構ですよ。メアリーに怒られますからね。…寒いですか？それは、きっと貴方が風邪気味だからでしょう。そんなことはさておき、どうぞお入りください。

ホームルーム？

ファミレスのドアが開く。十代の男が入ってきた。百八十くらいの長身なのに、上下スウェット姿。うらやましすぎるモデル体型を典型的にもてあましている。もうちよつとましな格好をすれば、どっかのモデル事務所がスカウトするだろうに。どっからどう見ても…まあ個性的なイケメンだ。オレンジがかった茶髪に、両耳にはよく耳たぶが耐えていられるな、というくらいの数のピアス。鼻にもピアス。たぶんへそにもピアス。絶対こいつは空港の職員を悩ませる人間だと勝手に妄想して勝手に笑いそうになる。

「何にやついてんだよ、相変わらずキモイ奴だな」

と金髪八頭身野郎が睨んできた。こいつの目は切れ長なのに二重だから異様に眼力がある。

「いや、お前の耳たぶ落ちんじゃねえかと思つて」

「落ちてんのはそつちの視力だろ」

おっと、キレてんのは目だけじゃなくて頭もだった。

「んなことどうでもいいけど、俺の番まだかよ」

「あら、タクちゃんごめんねえ。あともう少し」

と、俺の前で古典に苦戦しているばあさんが顔も上げずに応えた。

「ああ？まだそれやつてんのかよ。いい加減別のやれつて」

「何言つてんの、タクちゃん！今、光君様がかっこいいのよ。ああもつ、光君様の時代に生まれなかったわ」

と、金髪野郎に対して一ミクロもビビらずに言い返しているのは、八十代の小柄なばあさん。頭はほとんどが真っ白だが、年の割には姿勢がいいし声に張りがあるせいか、実年齢より若く見える。これ、本当。別におだてているわけじゃない。いや、おだてたら大変だからおだてはしない。なぜかって？ま、そのうちわかるさ。

「はあー？それはフィクションだろうが。いつお前が生まれようか光何ちゃらには会えねえつづの」

「あらま、なんて夢のない子なこと。今の若い子はそんなもんかねえ。…あ！今日はタクちゃんって呼んでも文句言わないわね。いつもなら、やめろって言うのに。嬉しいんでしょ」

「あ？いちいち言い返すのがめんどいだけだよ」

「嬉しいくせに」

「ちげーし」

と二人は親しげ（少なくとも俺にはそう見える）に言い争う。

「はい、終了。口に神経回す暇があるなら手と頭を動かさない、なばなさん」

俺はそう言つと、ストップウォッチを手に、

「あと三分。分かった？なばなさん」

と言つと、ばあさんはあらあらと急いで古文を訳し始めた。

「拓海、今日何やるんだ？」

「確率」

「お前、世界史やるんじゃないのか？」

「はあ？そんなんつま」

「ぎゃあああああ」

「小春、よしよしごめんね、起こしちゃった？」

俺らの会話を遮つたのは、右隣に座る親子。というか、赤ん坊。

「ほら、お前が世界史やらんせいで小春ちゃんが起きただろ」

見た目に似合わず、小春という赤ん坊にべろべろをくわしている拓海に言つた。

「何、上先言つてんだよ。無理に俺に世界史を進めるから、小春が俺をかわいそうだと思つて泣き始めたんだろ」

「いや、小春は寝起きがものすごく悪いので…」

母親は申し訳なさそうに言つた。

「あー田沼さん、気にしないで。これも俺らにとつちやコミュニケーションだから。ほら、言語活動を重視してるからさ」

「本当ですか？その割には言葉遣いが（笑）」

「でたブラック桜ちゃん」

「言わねとるじー」

「お前にも言っとんだ」

ホームルーム？（後書き）

こんばんは、北見虹です。

更新が遅くて申し訳ありません（*|*）；

長編小説をまだ完成させたことがない超初心者ですが、マイペースに書いていこうと思っているので、どうぞよろしくお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4364z/>

夜間不定時制学校

2011年12月19日00時52分発行